

もう少し一緒

園長 高地 敬

ずいぶん前に切り取った童話の書評が出てきました。

「信頼する先生が、『人の心は井戸。深く掘った底は水の流れが通じている。立場の違う者も、深いところで共感し合える』と、言っていたけれど、どうなんだろう」と書いてありました。

確かに私たちは、表には見えない深いどこかで通じているんだろうと思うのですが、「深い所」のどこで通じているのかよく分からないし、通じているとしても、どうやって付き合えばいいか分からないし、立場や考え方が大きく違って人を受け入れるのはやっぱり難しいと思っています。

書評の続き、

「だれにも短所も長所もあり、多分それが車の両輪になっている。」

長所だけの人はいないし、短所だけの人もちろんいない。でも、私たちは相手の良くないところにばかり目が行ってしまい、良いところに目を向けようとしていないことがとても多いことに気づかされます。

それは分かっているけど、心の広い人にすぐにはなれないし…。

この書評の結びは次のようなものでした。

今、急かしても、叩いても、「母さん」と寄ってきて、私が泣きたい時にも、笑っている子どもと手をつないでいる。ま、いいか。かけがえのない息子よ、もう怒らないとは言えないけど、一緒に歩こう。もう少し……。